

第4学年竹組 図画工作科学習指導案

指導者 菊 地 薫

1. 題材名 キラキラでこぼこ○○の世界

2. 題材の目標

- 金紙や銀紙など、光を反射する材料に興味や関心をもち、組み合わせながら表現する楽しさを味わう。
(造形への関心・意欲・態度)
- 金紙や銀紙などの形や色からイメージを広げ、思いついたものを表現する。
(発想や構想の能力)
- 金紙や銀紙を組み合わせたり重ねたり、しわをつけたりするなど、色や形を生かした表現を工夫する。
(創造的な技能)
- 金紙や銀紙などを生かした表現の美しさに気付く。
(鑑賞の能力)

3. 指導にあたって

(1) 児童について

男子18名、女子12名、計30名のクラスである。

図工の時間に意欲的な子どもが多く、試行錯誤しながら、より自分の思いを伝えられるようにつくったりかいたりしている。前単元の「何でもボックス」では、ダンボールという素材の厚さを利用してしきりを工夫して立てたり、丈夫さと曲がりやすさを利用して箱のふたを作ったりできた。また、コラージュの技法は前学年では題材「布とお話」で経験しており、家庭から集めてきた様々な布地の色や形、手触りなどを楽しみ生き生きと活動した。

けれども、表現の工夫があまり深まらないままにできあがりと考えてしまう子どももいるので作品への追究力をつけていきたい。

(2) 題材について

この題材は、光を反射する紙の美しさを生かして表現する活動である。既製の材料の色や形、材質感などを活用できるとともに、アルミホイルなどの可塑性から「つまむ」「重ねる」「折る」など手の感覚を働かせた表現活動を行うこともできる。

はじめに、光を反射する紙の美しさに気付きながら材料集めを行い、その材料からイメージを広げて表し方を工夫し、自分が思いついた世界を表現する。キラキラとしていてでこぼこと厚みがある世界を子どもたちに提示することで、子どもたちは想像を膨らませ意欲的に表現できると考える。

また、完成した作品をお互いに紹介し合うことで、材料の色や形を生かした表現の工夫や美しさについてさらに深めることができるようにしていく。

(3) 指導について

この題材では、意欲的に材料集めができるように、天気の良い日に材料を提示して、光を反射しながらきらきら光る素材の美しさに興味をもつことができるようにする。

表現の最初の場面では、「組み合わせる」「重ねる」「しわをつける」など材料を生かした技法に気付くことができるように、参考作品を用いて話し合う。それから、各自の表現したいことを見つけることができるように、光る紙を様々に並べたり組み合わせたりして試す時間を設ける。

本時は表現の続きの時間である。光る材料を工夫しながら用い自分の発想を生かして作り出す楽しさを味わうことができるように、表現の時間を十分に保障する。また、友達の作品を参考にしてもよいことを確認したり、材料コーナーを設けたりする。

また、子どもたちが、さらに、イメージをふくらませて意欲的に取り組むことができるように、教育センターの先生から表現の工夫や自分の作品の出来映えなどについてアドバイスをもらうことのできる場を設定する。

4. 全体計画 総時数5時間(本時2・3/5)

主 な 学 習 活 動	機	Bの子をさらに伸ばすための手だて	評 価 基 準 B	評価規準Bに近づけるための手だて	備考(教材・類など)
- 光が反射する材料に興味をもち、イメージを広げ、自分が表現したいものやことを思いつく。 - 形や色をいろいろ組み合わせて、表現を工夫する。 (1)	全 ↓ 個	工夫してはり絵ができるように、参考作品から「重ねる」「ちらす」「しわをつける」などの方法を知らせる。	光が反射する材料からイメージし、作りたいものを思いつくことができる。	光が反射する材料からイメージを広げられるように、組み合わせて見せるなどする。	- 参考作品 - 実物投影機
光る材料を生かし形や色を組み合わせて、表現を工夫する。 本時(1・2/3)	全 ↓ 個	TV会議システムを使い、教育センターの先生からも表現の工夫などについてアドバイスしてもらえるようにする。	- 光る材料の形や色からイメージを広げ、自分の思いを表現することができる。 - 光る材料に関心をもち、はり絵の材料として工夫して使うことができる。	- 工夫してはり絵ができるように、前時の方法をキーワードにして掲示しておく。 - 自分の思いつかないアイデアに気付くことができるように、友達の作品を参考にしてもよいことを知らせる。 - 作りたいものの発想を広げることができるように材料コーナーを用意する。	- TV会議システム - 材料コーナー - 振り返りカード
光る材料を使った作品の美しさを鑑賞し合う。 (1)	全	なぜ作品が美しく見えるのか、理由も考えて伝えられるように、鑑賞カードに記入欄を設ける。	光る材料を用いた自分の作品の美しさを伝えたり友達の作品の美しさに気付いたりできる。	作品の美しさに気付くことができるように、鑑賞カードを用意する。	鑑賞カード

5. 本時の実際 (2・3 / 5)

(1) ねらい ○ 光を反射する材料に関心を持ち，組み合わせながら工夫して使い，自分の思いを表現することができる。

(2) 学習過程

過程	形態	時間	学習活動と予想される児童の反応	○ 学習への支援	評価
つかむ 表現する	全	8	1. 課題を確認する。 キラキラでこぼこの美しさを生かして，世界をつくりあげよう。 ・ 光る紙を組み合わせるときらきらしてきれいだよ。 ・ しわをつけてみようかな。	○ 表現の工夫が広がるように，前時で工夫した作品を提示し話し合いの場を設ける。 ○ 教育センターの先生からも，参考作品を見せてもらったり，表現の工夫についてアドバイスをしてもらう。(TV会議システム)	
	個	65	2. 光る材料を組み合わせで表現する。 ・ アルミホイルを使うと形が作りやすいな。 ・ ○ 色と 色の光る紙を組み合わせようかな。 ・ 光る紙を形に切ってはるとおもしろいぞ。 ・ ○ ○ がうまくできたからセンターの先生に見てもらいたいな。 ・ を作るために何かいい方法はないかな。教えてもらいたいな。 ・ この光る材料で何を表そうかな。	○ 作りたいものの発想を広げることができるように，光る材料コーナーを設ける。 ○ 表現の途中にヒントをもらったり出来映えを確かめたりできるように，教育センターの先生からもアドバイスをもらえる場を設定する。(TV会議システム) ○ 表現したいアイディアをもつことができるように，友達の作品を参考にしていよいことを確認する。 光る材料を工夫して使い，自分の思いを表現することができたか。(観察・作品)	
	全	5	3. 振り返りをする。 ・ ホイルをくしゃくしゃにしたら，でこぼこに光ってきれいだったよ。 ・ 次は友達の工夫を自分でやってみたいな。	○ 自分の活動を振り返り次時への見通しをもつことができるように，自己評価カードを用意する ○ 次時への意欲を高めることができるように，教育センターの先生に，話をしてもらう。	
	全	12	4. 後かたづけをする。	光る材料に関心をもってはり絵ができたか。(作品・カード)	